

1 学期終業式講話

皆さんおはようございます。

本日をもって1学期を終えます。この1学期間の4か月あまりはいかがだったでしょうか。短く感じた方は充実していて忙しかったと思います。長く感じた方は色々悩み考えたためだったかと思います。

さて、入学当初皆さんには3つのことをお伝えしたことを覚えていますか？

学校生活の根幹である授業を大切にしていきたいということ。人を大切にしていきたいということ。探究を標榜している中で、たくさんの失敗をしていただきたいということ。おそらくこれらは今後幾度となく皆さんにお伝えしていくものと思います。

皆さんは本校の教育目標というものを知っているでしょうか。3年生は当然知っているでしょう。1年生はいかがでしょう。それは「自律する若者」です。自律するということは、自らを律して将来のグランドデザインを描いて、自ら突き進んでいくということで、これはかなり高度な目標とも言えます。そのためのサブタイトルが、「未見の我を探す」ということです。「未見の我」とはまだ出会っていない自分ですが、隠されていた性格や才能もその一つかと思います。3年生はそういった「未見の我」に出会った方はいるのではないかと思います。

先日、富士市長の前で市役所プランを発表したグループの人たちはその一例ではなかったでしょうか。2年生の頃に市役所プランをグループの中で話をしたり調べたりしている時、はたして市長の前で説明したりすることを考えていたでしょうか。仲間内で意見したり議論しているうちに、今までになかった発想をしたり、みんなの前で発表していくうちに段々と慣れてきて、そのうちに考えてきたことを伝える喜びを感じてくれたのではないかと思います。自分は人前で話すのが苦手だった人が、逆になるような、そんな事例こそ「未見の我」に出会えたといえるのではないのでしょうか。

私自身もそのような体験をしたことがあります。中学校の時にテニス部に所属しておりましたので、高校もその延長でテニス部に入りました。ところが練習がきつくて、ボールが見えなくなるとやたらと走らされ、毎日くたくたになって帰宅していました。当然勉強もやる時間もなくて、こんなじゃあ部活動をやめた方がいいと毎日そんな繰り返しでした。1年生の1学期の成績は散々なもので、部活動をやめるべきか、やめても勉強はそんなにできないだろうかと暗澹たる気持ちで夏休みを迎えた記憶があります。高校生活はもっと楽しいものと思っていたので、裏切られたような気持ちでした。

夏を終え、秋にスポーツテストが行われました。今日の新体力テストの旧バージョンですね。そこで中学時代鉄棒の懸垂がゼロ回だったのが、20回できるようになっていました。20回というとその部門で満点になります。持久走といって1500m走るのが6分を切るのがやっとだったのが、5分を切るようになりました。今世界陸上の女子の田中選手は4分すら切りますが、それでも20点満点になります。何かそうした結果がでるとスポーツが楽しく

なってきました。実は中学校時代までは体育の授業が嫌で、授業前はよくお腹が痛くなりました。つまり運動嫌いだったわけです。それが少しずつ払拭されて、11月のマラソン大会を迎えました。伊豆の山を23キロほど走るものですが、この時に最初に先頭集団にいました。こんな経験今までありませんでしたので、まあそのうちにバテるだろうと走っていました。ところがそのような状態で20キロあたりまで来た時に、10番くらいだぞと言われて大変驚きました。なぜなら中学校時代は全校生徒300人中の200番以上でしたから、900人ほどで10番くらいなんて考えもしない順位でした。結果はさらに一人抜き、自分でも信じられない気持ちでゴールしました。

それ以後スポーツ好きになりましたし、自分に自信が持てるようになりました。教員になってずっとテニス部の顧問をやっていましたし、今も高野連や高体連の役員をやっています。高校に入るまでは勉強ができるタイプだったのが、スポーツができるタイプに変身できたわけで、それこそ「未見の我」に出会えたのではないかと思います。

3年生の皆さんは探究授業、究タイム等で色々なことを調べたり意見したり発表したりしたことが、これからの大学進学や就職試験で思わぬ成果をもたらすものと信じています。気づかないうちに身に付けていた…、それこそ「未見の我」です。2年生は3年生に代わって部活動の主力として1年生を牽引しています。1年生はそういった2年生についていながら力をつけていきます。その中に必ずや「未見の我」が潜んでいると思います。

この夏、コロナや熱中症に負けず、「未見の我」を探してください。

(令和4年7月22日、終業式)